

名都借の木

No. 43



2022年10月10日発行
発行者:流山市立木の図書館
(指定管理者:株式会社すばる)
住所:流山市名都借313-1
Tel: 04-7145-8000



2022年度読書週間 10/27-11/9

「この一冊に、ありがとう」

今年の読書週間の標語は

「この一冊に、ありがとう」

です。作者の天野耕平さんによれば、

「読書で心が震える体験は、何物にも代え難い奇跡のようなものだと思います。」

とのことですよ。

物語に震える



たしまさとみさんによる
読書週間ポスター



文芸といえば、以前は然るべき学を修めた作家が、人の在り方を追及する、そんなイメージがありました。

しかし、最近ではいろいろな背景を持つ作家が、それぞれの生き方や興味から、それぞれの物語を紡ぎ出しています。

ここ数年の文学賞候補のタイトルなどを眺めるだけでも、みなさんの琴線に触れるものがあるかもしれません。



近年文学賞等で注目された作家の作品(請求記号は913.6から始まります。)

事実に震える



実際に起こったことを追求し、社会の今の姿を浮かび上がらせるドキュメンタリーも新しいありかたが見られます。

大事件を追うだけでなく、日頃の生活で起こることをテーマにしたものが増え、私達も他人事ではないと思われされます。

近年文学賞等で注目されたドキュメンタリー(請求記号はテーマによって違います。)



童心が震える

みなさんにも子どもの頃に読んで心に残る作品があると思います。大人になるとすっかり縁遠くなってしまいがちですが、今もすばらしい絵本や児童文学が、新たに描かれています。

読み継がれてきた名作だけでなく、今この時代の子供へ届けられた作品もご覧いただき、みなさんのなかの童心が震えるのを楽しんでいただければと思います。

近年注目された絵本(請求記号はEから始まります。)



手紙がつむぐ文学



ニコラス・スパークス／著
『きみと息をするたびに』
(アチーブメント出版)

～ 配達されない手紙 ～

最近、誰かに、手紙を書きましたか？ 手紙が大事な役割を果たす作品を集めてみました。

1作目の舞台は、海辺に立てられたポストです。人生の岐路にあるホープは、英国系アフリカのトゥルーと出会い運命の6日間を過ごします。

しかし、ホープの選択は…。海辺のポストは、キンドレッド・スピリッツ(心の友)と呼ばれる、“配達されない手紙”を書きたい人のために作られた、特別な郵便ポストです。

秋の夜長、映画のようなラブ・ストーリーはいかがですか。



この本もおすすめてです！



小川 糸／著
『ツバキ文具店』
(幻冬舎)



岩佐 めぐみ／作
『ぼくはアフリカにすむ
キリンといひます』
偕成社おはなしポケット
(偕成社)



他にこんな本もあります！



20年後の自分から突然、手紙が届いたらあなただったら、どうしますか？

ある日、10才の章子に1通の手紙が届きます。差出人は、30才の自分。

その日から、章子は返事を書きます。手紙の形で綴られる長編ミステリー。

湊 かなえ／著『未来』(双葉社)



芥川賞作家による七篇の物語です。その1つ『文通』は、主人公 陽太がはなった「手紙、書くから。」という、その場しのぎの言葉から始まる、浮子との手紙のやりとりが描かれます。

多和田 葉子／著
『穴あきエフの初恋祭り』(文藝春秋)

木の図書館イベント情報

木の図書館では、11月17日木曜日に「認知症サポーター養成講座」を東部公民館にて、開催いたします。「認知症サポーター養成講座」とは、認知症に関する正しい知識と理解を深めて、認知症の方や、そのご家族の方たちを、出来る範囲で、そして、町ぐるみで支えあえる人(＝認知症サポーター)を育てるための講座です。「認知症の方に、どう接したらいいの?」「心配だけど、どういう風に、声をかけたらいいの?」といった疑問に対して、講師の先生とシミュレーションなども交えて勉強していきます。特別な資格はいりません。特別な活動への参加を強要するものでも、ありません。お気軽にご参加ください。

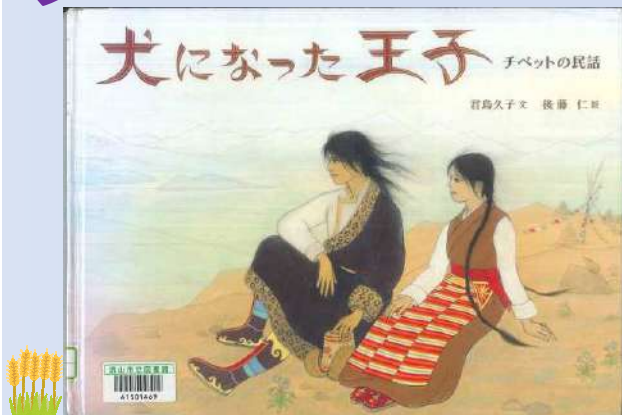


子どもの木



変身！！

今回は「変身」をテーマにご紹介します。
何がどう変わったのか、ぜひ注目してみてくださいね！



『犬になった王子 チベットの民話』

君島 久子／文 後藤 仁／絵（岩波書店）

中国にあるアバ・チベット族チャン族自治州マルカン
一帯に伝わっているおはなしです。

なぜ王子は犬になったのか、もともにもどれたのかは、
読んで確かめてみてくださいね。



『わかったさんのドーナツ』

寺村 輝夫／作 永井 郁子／絵（あかね書房）

クリーニング屋のわかったさん。お休みの日に女の子が
ブラウスの洗濯をたのみに来て…



『このあいだに なにがあった？』

佐藤 雅彦／作 ユーフラテス／作（福音館書店）

2枚の写真をみくらべると、何かが変わっています。
変わるきっかけは何か考えてみよう。



『かんたん手芸④ モールでつくろう』

寺西 恵里子／著（小峰書店）

モールが主役！まげて、切って、くっつけて…
ステキな作品をぜひ、作ってみて♪

イベント情報

くわしくは、館内ポスターや広報、ホームページをご覧ください。



10月 親子でチャレンジ！

マクラメフェザーのキーホルダー

12月 クリスマスおはなし会スペシャル



これからの木の図書館

連絡先

木の図書館

電話:04-7145-8000

年末年始の閉館のお知らせ

流山市立図書館では、
12月29日(木)から1月4日(水)の間は、
閉館となります。



郷土へのいざない vol. 33

～信仰のかたち (2) 不安な時代のよりどころ

長崎の天形星神社は、天文の中でも天形星を名乗る非常に珍しい神社ですが、成り立ちなどはあまりよくわかっておらず、流山市の郷土資料を見ても詳しくは載っていません。

しかし現在も良く整備されており、地域の信仰、人々のよりどころとなってきたことがうかがえます。

天形星神社に奉納される石碑は1810年ごろ(文化)および1840～1860年代(天保から文久)の2つの期間に急に増えています。



天形星神社に奉納されている庚申塔
(安永～天保年間に建立)

1810年前後には外国船の来訪、文化の大火や永代橋の崩落が、1840年代は、数年前の天保の飢饉や大塩平八郎の乱に始まり、黒船の来航から幕末への社会の激変、安政大地震やコレラの流行などが起こりました。

これらを目の当たりにした庶民の不安はどれほどのものだったでしょう。

そのような時代に人々は庚申講などを通して支え合い、心のよりどころとしたのかもしれません。



天形星神社のいろいろな碑(弘化～文久に建立)

参考資料： 流山市立博物館発行「流山の石仏(流山市立博物館調査研究報告書5)」(1987年)

10月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

斜線は休館日 青は17:00まで開館

青枠はイベント

木の図書館カレンダー

休館日 月曜日(祝日の場合は火曜日)
月末日(土・日・祝日を除く)
年末年始(12/29～1/4)

開館時間 火曜日～土曜日 :9時30分～19時
日曜日、祝日 :9時30分～17時